



TIEPh

Transdisciplinary Initiative for Eco-Philosophy

Transdisciplinary Initiative for Eco-Philosophy

TIEPh

Toyo University
125th
Anniversary



TOYO UNIVERSITY

Newsletter No.13 2012. 1

10/8「人間と自然の共生と持続可能な関係を求めて—風土のしらべから」

東洋思想からの刺激的な〈共生〉シンポジウム

東京農工大学：亀山 純生

私は、倫理学の立場から日本の環境問題の現実即した〈日本型環境倫理〉を追求し、日本の自然観をベースに〈風土的環境倫理〉を提唱してきた。シンポジウムではそれを紹介しつつ、〈今〉風土に注目する意義を中心に報告し、3点を強調した。①日本の環境問題の現場では欧米流の環境倫理学が行き詰まり、解決方向は風土の視点にある。②日本の近代化が生んだ深刻化人間疎外——特に〈孤人〉化——の解決も、自然遊離の都市型ライフスタイルからは絶望的で、風土の復活こそがカギである。③風土は人間と自然の共生、人間と人間の共生を共に実現する点に意義があり、復活のためには日本の自然観のポイントを東洋思想から解明することが重要である、と。



この点で、竹村先生の御報告は、東日本大震災から戦後日本社会が過信してきた近代的自然観の転換と仏教思想の役割を明らかにされ、私の報告と正面から響き合うものと拝聴した。

特に、自然観はただの観念でなく行動に連続すべきとの仏教哲学からの提起は、禅に造詣の深い農学の中川先生、インド哲学の宮本先生、それぞれの〈現場〉からのコメントとも響き合って東洋思想の現代的意義を鮮明にする緊張した思想空間をなし、実に意義深かった。私は一面では、風土や日本の自然観、伝統思想論が上滑りの感情論に陥る風潮を危惧してきたからである。そして、マリンバ演奏と〈語り〉での仙道先生の「風土のしらべ」は、この思想空間に独特の身体感を重ね、参加者全体で知と感性が共鳴する〈不思議な〉空間にしていた。知を専ら論理と見なす傾向に疑問を抱き、知の身体性、知的空間の感性的基盤が重要と考えてきた私には、実に新鮮な〈共生〉のシンポジウムであった。

テーマ・論点といい演出といい、東洋思想の“メッカ”なればこそその刺激的なシンポジウムと敬服するとともに、これに値遇し学ばせて頂いたことに改めて感謝する次第である。



東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ (TIEPh) は、自然観探究ユニット、価値観・行動ユニット、環境デザインユニットから構成され、さまざまな研究活動、シンポジウム、研究会を企画・運営しています。今回のニューズレターでは、2011年度の活動報告、及び活動予定を掲載します。詳細につきましては、TIEPh ホームページ (<http://tieph.toyo.ac.jp/home.html>) をご参照ください。

11/12「宗教と環境シンポジウム—新しい文明原理の生活化と宗教」報告

【主催】宗教・研究者エコ・イニシアティブ



自然観探究ユニット：竹村 牧男

2011年11月12日、東洋大学白山校舎にて、宗教・研究者エコ・イニシアティブ（RSE）主催、東洋大学国際哲学研究センター（IRCP）共催、東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）後援により、「第2回宗教と環境シンポジウム—新しい文明原理の生活化と宗教」が開催された。宗教・研究者エコ・イニシアティブ（代表・西山茂東洋大学教授）とは、宗教学関係研究者と宗教者が協力して環境問題に取り組もうとする組織であり、今回のシンポジウムは昨年に続き2回目である。今回は東日本大震災を受け、特に文明原理の転換を深く追求することとした。参加者は、2百数十名に及んだ。

本シンポジウムのプログラムは、開会あいさつ；山本良一（東京大学教授、RSE 副代表）「エコ文明実現のために倫理パネルを設立せよ」、基調講演；竹村牧男（東洋大学教授）「迫られる文明原理の転換と宗教哲学の使命—人間は欲望を制御出来るか？」およびパネル発表；茂木貞純（國學院大学教授）「日本の原型を伝える神宮の式年遷宮—持続可能な社会を求めて」、武田道生（淑徳大学准教授）「持続可能型社会のための仏教倫理的生き方・私論」、村田充八（阪南大学教授）「キリスト教有神論と環境問題—ステュワード（管理人）として生きるということ」、佐藤孝則（天理大学おやさと研究所教授）「天理教の自然観と環境保全運動」、の各発表があり、その後「新しい文明原理の生活化と宗教」についてのパネル・ディスカッションが行われた。

竹村（東洋大学）は仏教および西田幾多郎の宗教哲学を基盤に、自己と自然への深い理解に基づく世代間倫理への展望を述べた。パネル発表では、神道・仏教・キリスト教・新宗教の各分野から環境保全への取り組みの宗教的基盤についての説明があり、相互の位置関係と共通点が浮かび上がった。パネル・ディスカッションにおいてはさらに相互理解が深められ、最後にはフロアとともに、文明原理の転換の促進とその生活における実践に、宗教者としてあらためて強力に取り組むことで一致した。

11/18「生物多様性という課題—東日本大震災からの復興を視野に」報告

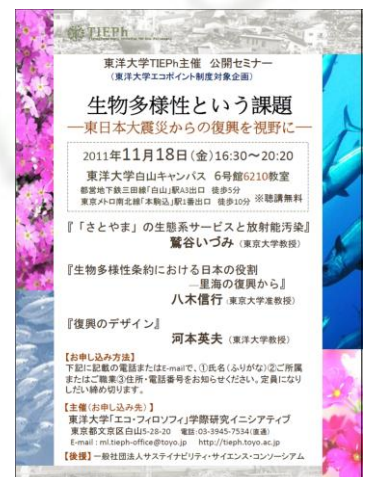
環境デザインユニット：河本 英夫



東日本大震災後の新たな状況をうけて、生物多様性をどのように実現していくかを考えるセミナーを開催した。鷺谷いづみ先生（東京大学）「くさとやま」の生態系サービスと放射能汚染」と八木信行先生（東京大学）「生物多様性条約における日本の役割—里海の復興から」、河本（東洋大学）は「復興のデザイン」の三つの講演を提題として、その後総合討論を行った。

生態系の多様性は人間の介入を制限し保護すれば自動的に維持されるものではなく、また人工的に回復させようとしても、人間の設計とはタイム・スパンが異なり過ぎており、容易ではないとの共通理解のもと、さまざまな試行錯誤の課題が提示された。

鷺谷先生は、原発をめぐる対応については、チェルノブイリ事故を参照項として、事故後の生態系の変化の推移を述べた。八木先生は、漁業権や禁漁区の設定が、漁業の持続可能性に対して、どのような工夫になっているかを明らかにした。河本先生は、復興のデザインの基本的な指針として、ベスト・ミックスではなく、ベター・ミックスズ、一行為多機能化、選択性の導入等を述べた。総合討論では、今日の震災復興や TPP の議論には「環境」を視野にいれた討議が十分なされていないとの意見がでるなど、フロアとの活発な質疑が行われた。



10/24-29「エコ・ウィーク」の開催報告

【協賛】東洋大学エコキャンパス推進委員会

TIEPh 代表：山田 利明

TIEPhでは、10月24日から29日までの1週間にわたり、エコ・キャンパス運動の一環として、「エコ・ウィーク」を実施した。これは、東洋大学エコ・ポイント制度の発足にあわせて、「エコ・フィロソフィ」の理解を目的としたTIEPhの実践活動である。この1週間に3つの催事を置いて、10月からはじまった「東洋大学エコポイント制度」の広報をも兼ねて、参加者・入賞者には、エコポイントの付与も行われた。

10月27日(木)の昼休みに2回にわたって行われた「ウォーキング・ビューティー」は、歩くことを楽しみにかえることを目的にして、「美しく」、「健康」に歩く方法を学ぶ企画である。

美しく歩くことで体のくせが改善され、疲れずに歩くことができる。歩く姿勢がよくなると気持ちも元気になるということで、エレベーターや車を使わず、かつ心身ともにエコ・ライフを楽しむことができる。

講師の澁谷有里さんは、ウォーキング・アドバイザー。学生や教職員も参加する30分ほどのレッスンであったが、全員が胸をはって歩くことで、姿勢もよくなり、表情も明るくなるなど、大好評であった。

東洋大学エコポイント制度対象イベント
(全キャンパス・学生/教職員対象)
環境について考える週間
Eco-Week
エコ・ウィーク
10月24日(月) - 29日(土)
【主催】東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(TIEPh)
【協賛】東洋大学エコキャンパス推進委員会
TIEPh
東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(TIEPh)では、東洋大学学生・教職員の皆さんの「環境問題への意識向上と実践」を推進しています。
1・「ウォーキング・ビューティー」-美しく歩く-
10月27日(木) 場所:白山キャンパス4号館体育館
講師:澁谷有里 先生(ウォーキング・アドバイザー)
①12:10~12:50 ②13:20~13:50 (職員歓迎)
2・「エコ・アイデア」 & 「エコ川柳」大募集
東洋大学をもっと「エコ」にするアイデア、「エコ」にかかわる川柳を大募集!
(白山キャンパスでは、エコウィーク期間中に投稿欄を学生・セブンイレブン・生徒に設置し、投稿用紙を配布します。※メールまたはファックスでも受け付けます。)
東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ事務局
白山キャンパス6号館4階6045室 Tel:676-03-3945-7534
E-mail: ml.tieph.office@toy.jp http://tieph.toyo.ac.jp/



「エコ川柳」「エコアイデア」の募集は、期間中の1週間、学内数ヶ所に応募用紙と応募箱を置いて募集した(写真下)。応募者は多くはなかったが、それでもいくつか佳作があった。紹介しておく、

○エコ・川柳

- ・かばんの中 出番を待ってる エコバッグ
- ・階段で 電気もわたしも ダイエット
- ・節電で ムダが多いと 気づかされ
- ・ちょっと待て 手持ちカバンに 入るでしょ
- ・エゴイスト 階段のぼれば エコイスト

○エコ・アイデア

エコ大賞には、「古紙回収BOX」の設置を提案した2名の方に決定。再生紙として活用できる他に、裏の白いままの紙はコピー用紙にも使える。このアイデアは、学内で実現のための方法を検討中。



これらの他にも、興味ある作品やアイデアがあった。

TIEPhの活動は、従来、セミナーやシンポジウムなど、これまで理論構築を目的とする行事が多かったが、今回は実践的側面をもった催しを行った。参加者の反応は一様に好評であり、多面的な活動による「エコ・フィロソフィ」の確立に新たな発想を得たといえる。

〈2011年度 TIEPh 活動報告〉

・4月～7月
「全学総合」講義として「エコ・フィロソフィ入門」を開講

・10月8日
TIEPh主催 公開シンポジウム
「人間と自然の持続可能な関係を求めて
—風土のしらべから」

於：東洋大学 白山キャンパス 井上円了ホール

・10月24～29日
学内向け企画「エコ・ウィーク」
「ウォーキング・ビューティー」(10/27)
「エコ川柳」「エコアイデア」募集

・11月12日
TIEPh後援 シンポジウム
「第二回 宗教と環境シンポジウム
—新しい文明原理の生活化と宗教」
於：東洋大学 白山キャンパス 1号館 1102教室

・11月18日
TIEPh主催 公開セミナー
「生物多様性という課題
—東日本大震災からの復興を視野に」
於：東洋大学 白山キャンパス 6号館 6309教室

・12月17日
TIEPh共催 研究会
「第三回人間再生研究会」
於：東洋大学 白山キャンパス 6号館 6310教室

〈今後の活動予定〉

・2月21日～25日
マレーシア価値意識調査（価値観・行動ユニット）

・3月10日
東洋大学 TIEPh/茨城大 ICAS 共催国際セミナー
「現代の人間危機と環境の危機
—自然と共生する社会・文化のかたちとは」
※詳細は以下をご覧ください

・3月下旬
『「エコ・フィロソフィ」研究』vol.6 刊行予定

・3月28日
活動報告会（評価委員会）

※今後の活動の詳細は、順次ホームページにアップいたします。

【お知らせ】

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）/茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）
国際セミナー

「現代の人間危機と環境の危機—自然と共生する社会・文化のかたちとは」

日時：3月10日（土）13:00～ 場所：東洋大学白山キャンパス 6号館 6317教室

○第1フェーズ—文化と自然 ○第2フェーズ—社会と自然

講師：オプヒュルス鹿島ライノルト（上智大学教授）

「エコ・フィロソフィ」が特集されました！

一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC）発行の『サステナ NEW』（ウェブ版）に「エコ・フィロソフィ」研究について特集されています。以下のHPよりぜひご覧ください。（サステナは、地域、社会、人間の未来について真剣に考えようとする人のための雑誌です。）

『サステナ NEW』第21号

○特集 エコ・フィロソフィの新たな展開

<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/websasutena>



ニューズレター13号 平成24年1月発行

編集 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）

住所：東京都文京区白山5丁目28-20 6号館4F 60458室 Tel&Fax：03-3945-7534

E-mail：ml.tieph-office@toyo.jp Homepage：http://tieph.toyo.ac.jp/home.html